PRESS RELEASE

NINO CARUSO

GIANT OF CONTEMPORARY ITALIAN CERAMICS

記憶と空間の造形 イタリア現代陶芸の巨匠　ニーノ・カルーソ

Forms of Memory and Space: Nino Caruso, Giant of Contemporary Italian Ceramics

ごあいさつ

　イタリアを拠点に世界を駆け回り、その知性と造形性が高く評価されたニーノ・カルーソ (1928-2017) の没後世界初の回顧展を開催いたします。

　ニーノ・カルーソは、2007 年に当館で回顧展を開催したカルロ・ザウリと並ぶイタリア現代陶芸の巨匠です。京都国立近代美術館では「現代国際陶芸展」（1964）や「現代の陶芸―ヨーロッパと日本」（1970）、「現代イタリア陶芸の 4 巨匠」（1988）など、折に触れその作品を紹介してきました。また、日本国内に目を向けても、滋賀県立陶芸の森の野外モニュメント《風と星》（1991）のデザインや岐阜県で開催される国際陶磁器展美濃で審査員を歴任するなど、カルーソと日本の関わりは深いものがあります。

　カルーソは、神話性、象徴性を制作におけるテーマの一つとしています。初期は、自身のルーツであるシチリアの記憶と結びつけた装飾的な器物を制作していましたが、次第に古代ローマやギリシャ、エトルリアの遺跡等を思わせる壁面や柱、門などの作品形態において、古代と現代を結ぶ空間の構築へと向かいます。特に 1960 年代中頃以降に手がける発泡スチロールをカットし、それを原型にして制作された作品群は、空間に特有のリズムを与えるもので、陶芸界における革新的な手法として世界中で高い評価を獲得しました。

　本展では、ニーノ・カルーソの偉業を 92 点の代表作ならびにデザインワークやスケッチなどの資料を通じて紹介することで、技術、素材、アイデア、記憶、空間が有機的に結びついた初期から晩年に至るカルーソの造形世界を回顧いたします。

　最後になりましたが、本展の開催にあたり、貴重な作品をご出品いただきました所蔵者及び美術館の皆様、ご協力いただきました関係者の方々、そしてご遺族のご理解とご尽力に対し、心より御礼申し上げます。

FORMS OF MEMORY AND SPACE

2020 年 1 月

主催者

◀ニーノ・カルーソ
《把手付壺》 1983-84 年

▲ニーノ・カルーソ
《抱擁》 1957 年

▶ニーノ・カルーソ
《エルマー両性具有》 1993 年

NINO CARUSO

GIANT OF CONTEMPORARY ITALIAN CERAMICS

●展示構成（コーナー解説）

アルカイックシリーズ

1950 年代中頃にニーノ・カルーソは陶芸家として活動を始めます。1960 年代中頃までは、カルーソは、紐作りで成形し、人物や生物を描いた絵付け、ざらついた質感の釉薬を特徴とする「アルカイック」シリーズの作品を制作します。これらのイメージは、古代ギリシャのアンフォラやエトルリア文明の文物、自身のルーツであるシチリアのアッダウラの岩石の質感から得られたもので、人体を思わせるフォルムと装飾を結合させたものでした。こうしたカルーソの作品は、1964 年に開催された日本で初めてとなる国際陶芸展「現代国際陶芸展」でも紹介され、彫刻家の柳原義達は「陶芸としての真の工人を感じる」と評価しました。

▲ニーノ・カルーソ
《盾》 2005 年

鉄の彫刻

ニーノ・カルーソの芸術全体を概観するならば、表現素材の第一に陶磁をおいていたとはいえ、時に鉄やセメント、グラスファイバーなど様々な素材を必要に応じて使いこなしていることがわかります。鉄による彫刻作品は、1950 年代末から 60 年代中頃にかけて意欲的に制作されており、1964 年にはマルケ州のペザロに自身初めての巨大な野外モニュメント《抵抗の碑》を制作しています。この時期のカルーソの鉄の彫刻は、自身がデザインしたローマのスーパーマーケットの手すりの制作のために必要部分が切り取られたあとの工業用の鉄板を譲り受けたことから始まったもので、切り取られた鉄板の断片で構成される鋭い曲線や直線の連なりが特徴です。

▲ニーノ・カルーソ
《共蓋壺》 1963 年

デザイン

1964 年から 65 年にかけて、ニーノ・カルーソは発泡スチロールを電熱線で複数のパーツにカットしたものを原型として、鋳込み技法で作品制作を行うようになります。この手法は、カルーソにモジュラー・ユニットの組み合わせ、展開によって、空間を構成することの可能性を拓きました。カルーソはデザインにあたり、部分が連続して生み出す空間の特質を綿密に計算し、基となる一つのパーツを作り上げます。カルーソは、この手法で多くの公共建築を彩ったほか、マラッツィ社など著名な陶磁メーカーからもカルーソデザインの様々なタイルやスクリーンなどの商品が発売されました。こうした合理性をあわせ持つカルーソのデザイン思考は、後に信楽の野外モニュメント《風と星》（1991）に結実します。

◀「IL VENTO E LE STELLE－風と星－」（デザイン：ニーノ・カルーソ／監修：株式会社 陶額堂／設計・監理：遠藤秀平建築設計事務所）
1991 年 滋賀県立陶芸の森

▶ニーノ・カルーソ
《進化 2》 1962 年

NINO CARUSO

GIANT OF CONTEMPORARY ITALIAN CERAMICS

FORMS OF MEMORY AND

モジュラー彫刻

ニーノ・カルーソが制作に用いた発泡スチロールを原型とする手法は、土や石膏で原型を作ってきた陶磁器業界・陶芸界にとって全く新しい画期的なものでした。カルーソはカットされた発泡スチロールの雄型、雌型を上下左右に組み合わせていくことで、単純な構成要素から複雑な空間性を湛える造形世界を生み出していきます。カルーソはこの手法を駆使して、時に構成そのものの実験を行い、そして地中海地方の神話や風土、建築物に着想を得た彫刻や壁面作品を制作します。「エトルリア人への敬意」シリーズはカルーソを代表するものですが、これらは一つの彫刻作品としての造形的魅力を保ちながら、人々に地中海文明の記憶を呼び起こさせるための入口にもなっています。

▲ニーノ・カルーソ
《シチリアの記憶》 1999-2004 年

夢の記憶

1964 年以降、モジュラー・ユニットによる作品制作を続けてきたニーノ・カルーソは、1990 年代の後半頃から、手捻りによる家型などの彫刻作品も並行して制作していきます。カルーソがこれらの作品を制作するきっかけは、自身が見た「夢」でした。カルーソはその夢について「自身が乗った電車が両親のルーツであるシチリアのコミソに停まり、カルーソが歩き出すと青年時代に初めて仕事を得た製油所などの懐かしい景色が現れた。道はきれいに舗装されているが、両脇に建つ建物は廃墟となっており、自身になじみのない建築様式であった。そのモニュメンタルなたたずまいに美しさを感じた自分は、かつての自身の記憶を深く深くたどっていった」と述べています。

▲ニーノ・カルーソ
《夢の館》 1999 年

▲ニーノ・カルーソ
《エトルリア人》 1985 年

▲作業風景　2005 年

▶ニーノ・カルーソ
《盾》 1985 年

NINO CARUSO

GIANT OF CONTEMPORARY ITALIAN CERAMICS

記憶と空間の造形 イタリア現代陶芸の巨匠　ニーノ・カルーソ

Forms of Memory and Space: Nino Caruso, Giant of Contemporary Italian Ceramics

FORMS OF MEMORY AN

会期

2020 年 1 月 4 日（土）～ 2 月 16 日（日）［38 日間］

開館時間

午前 9 時 30 分～午後 5 時　ただし金曜日、土曜日は午後 8 時まで開館

＊入館は閉館の 30 分前まで

休館日

毎週月曜日、1 月 14 日（火）※ただし 1 月 13 日（月・祝）は開館

主催

京都国立近代美術館

観覧料

一般 1,000（800）円、大学生 500（400）円

※（）内は前売り、20 名以上の団体、夜間開館時（金・土 17 時以降）の夜間割引料金

※ 高校生以下・18 歳未満は無料

※ 心身に障がいのある方と付添者 1 名は無料（入館の際に証明できるものをご提示ください）

※ 本料金でコレクション展もご覧いただけます

※ 前売券は 1 月 3 日までの期間限定発売

巡回

岐阜県現代陶芸美術館　2020 年 2 月 27 日（木）～ 4 月 12 日（日）

▲ニーノ・カルーソ
《パルミラ》 2006 年

●関連イベント

講演会「父 ニーノ・カルーソ」

講師

アンドレア・カルーソ（彫刻家）

日時

1 月 11 日（土）午後 2 時～ 3 時 30 分

会場

京都国立近代美術館　1 階講堂

定員

先着 100 名（当日午前 11 時より 1 階受付にて整理券を配布します。
整理券はひとり 1 枚のみお渡しします）

参加費無料（ただし本展の観覧券が必要です）、通訳付き

ギャラリートーク

日時

1 月 24 日（金）、2 月 7 日（金）　各日午後 6 時～ 7 時

会場

京都国立近代美術館　3 階企画展示室

定員

各日先着 20 名

参加費無料（ただし本展の観覧券が必要です）

本件についてのお問合せ先

「記憶と空間の造形 イタリア現代陶芸の巨匠　ニーノ・カルーソ」広報事務局（株式会社 TM オフィス内）

担当：馬場、清水、小林

〒541-0046 大阪市中央区平野町 4-7-7 平野町イシカワビル 8 階

E-mail：ninocaruso@tm-office.co.jp